

湯沢CS通信

令和5年7月18日 第61号
(発行) 湯沢市教育委員会
学校教育課 CS担当

各校の熟議の様子(その一)

六月から七月にかけて、各校で二回目の学校運営協議会が開催され、熟議が行われています。熟議とは、CSにおける二つの機能(熟議・協働・マネジメント)の一つで、学校と地域が協働でどのような子どもを育てていくのか、何を実現していくのかということについて、**熟慮と議論**を重ねていくことです。そのためには、学校や地域の実態を認識しあった上で、目標やビジョンを共有し、具体的な実践の取組を進めることが大切です。本市としては、熟議の形式や内容に関しては特にこだわらず、よりよい教育環境づくりのための協議を重ねてほしいと考えています。参加させていただいた学校の熟議の様子を紹介します。



湯沢北中学校

六月二十八日(水)実施

テーマ

「PTA活動の活性化」「リユースの取組について」

この二つのテーマについて委員の皆さんが議論を交わしました。「まずは行動してみることに。失敗したら修正して次の行動に移すことが大切」「メンバーが変わっても継続できるように、学

校運営協議会の取組をシステム化していくことが必要」など取組の姿勢や体制整備などについての意見も出されました。また、PTA教育講演会やリユースのチラシを委員の一人が作成し提案している様子を拝見し、委員の皆さんが主体的に動き出していることが伺えました。

皆瀬小学校

六月三十日(金)実施

テーマ

「皆瀬の子どもたちをよりよく育てるために学校・地域・社会ができること」

はじめに、テーマを念頭において学級懇談で校長が示す指す子ども像(明るい挨拶のできる子ども・課題に粘り強く取り組む子どもなど)を実現するために付箋を使ったグループ協議をしました。その様子を委員が参観し、後半の熟議に臨みました。熟議では挨拶に絞って議論しました。「保育園でも小学校でも挨拶はよくできていくが、地域の人に対する挨拶があまりできていないことが課題である。地域の人と挨拶をする場づくり(年代を超えて集う行事など)が必要でないか。」などの意見が交わされました。

皆瀬中学校

七月三日(月)実施

テーマ

「皆瀬の未来を担う生徒へ伝えていきたい思い」





熟議の前半には、学級担任を含む学年部の代表三人も参加し、テーマに沿って、皆瀬の子どもに付きたい力、そのためにできることについて三グループに分かれて議論しました。その中で他に働きかけたり、他を巻き込んだりして行動する力を育てるために、中学生が地域に出て自分の学校を発信する場を設定することが必要であるなどの意見が出されました。

後半は委員だけで学校運営協議会としてできることを議論しました。九月に完成する皆瀬新庁舎を活用した取組を中心に意見が交わされました。

稲川小学校

七月五日(水)実施 熟議のみ

テーマ「稲川の子どもたちのために保護者や地域ができること」

この熟議には学校運営協議会の委員、地域住民、教員合わせて二十八名が参加しました。参加者がテーマに対する自分の考え(地域行事への参加、登下校時の見守り・声かけ、自分から挨拶すること、子どもの話をたくさん聞くなど)を付箋に書いて張り付けていきました。そして、参加者一人一人が今日の熟議で一番心に残ったことをキーワードとして付箋に書き、ホワイトボードに貼り付けま



した。最後にそれを基に佐藤校長先生がまとめをしてくださいました。「つながり」「交流」「充実」「互いに関心をもつ」「夢の実現」を大切にして「おらほの学校づくり」をしていく方針を示されました。

稲川小学校では、学校運営協議会の委員が学校のPTAで組織している総務部、校外指導部、保健体育部の三部に所属しています。学期末の全校PTAの際に行われる部会に参加する計画です。熟議を生かした取組になることを期待しています。

稲川中学校

七月七日(金)実施

テーマ

「FNAゼミを通じた地域との協働・連携について」

委員がFNAゼミ(総合的な学習の取組で、学校として株式会社を模した取組「稲川カンパニー」を組織し、地域の事業所等と連携して独自の商品を開発し、販売する活動。今年度で三年目になる。)総会に参加しました。その後熟議を行いました。商品開発や販売に対して自分たちができることや保護者に働きかけることなどについて真剣な議論がなされました。総会でCEOの佐々木くんが、「この活動は、地域の活性化に貢献することがねらいであり、稲川の未来を自分たちで作り上げていきたい。」と力強く挨拶していました。この活動は学校だけで行うことはとても難しいことです。活動を成功させて生徒に達成感を味わわせるために、CSのよさを生かし学校と保護者・地域が協働して取り組んでいくことを期待しています。